

## 報 道 資 料

発表年月日 令和8年5月13日(水)  
担当部署名 福祉保険部医療政策局疾病対策課  
担当者 北村・本木  
連絡先 0742-27-8612(内線 62312・62311)

### 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)患者の発生について

県内の医療機関から中和保健所に重症熱性血小板減少症候群(以下、「SFTS」という。)の疑いがある患者の報告があり、県保健環境研究センターで検査した結果、**SFTS 患者が確認されました。**

なお、報道機関各位におかれましては、患者様やご家族などが特定されないよう、個人情報保護にご配慮下さい。**医療機関への取材や直接のお問い合わせはお控えください。**

#### ●患者の概要

- 【年代・性別】 60歳代、男性(中和保健所管内在住)
- 【症 状】 全身倦怠感、微熱、食欲不振、意識障害
- 【診 察 所 見】 刺口様紅斑あり(刺咬時期及び場所不明)
- 【患者の状況】 医療機関に入院・加療中

#### ●経過

- 5月1日 全身倦怠感が出現
- 5月4日 微熱、食欲不振を認め、A医療機関を受診し入院
- 5月8日 症状が悪化し、意識障害が出現したため、B医療機関に転院
- 5月11日 県保健環境研究センターによるPCR検査にて陽性確認

#### ●県民の皆様へ

##### <SFTSとは>

SFTSウイルスに感染することで引き起こされる病気で、主にSFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染します。

潜伏期間は6～14日。症状は、発熱、消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、腹痛、下痢)が多く、その他頭痛、筋肉痛、意識障害や失語などの神経症状、リンパ節腫脹、皮下出血や下血などの出血症状などを起こします。血液所見では、血小板減少、白血球減少、血液酵素の上昇がみられます。致死率は、6.3～30%程度と報告されていますが、現時点においては有効なワクチンはありません。

##### <感染を防止するために>

- ・マダニに咬まれないように気をつけることが重要です。特にマダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まります。
- ・マダニは、主に森林や草地等の屋外に生息し、全国的に分布しています。家庭内に生

息するダニとは種類が異なります。

- ・草むらや藪などに入る場合には、長袖、長ズボン、長靴、帽子、手袋等を着用し、首にタオルを巻くなど、肌の露出を少なくすることが大事です。

<もしマダニに咬まれたら>

- ・マダニの多くはヒトや動物に取り付くと、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、長時間（数日から長いもので10日間以上）吸血します。
- ・吸血中のマダニに気が付いた際は、無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿するなどの恐れがあるので、医療機関（皮膚科など）で処置しましょう。
- ・マダニに咬まれた後、数週間程度は、体調の変化に注意しましょう。発熱等の症状がみられた場合は、医療機関を受診し、マダニに咬まれたことや森林や草地等に行ったことを医師に伝えてください。

<SF TSの発生状況> (R8年5月11日現在)

年	R4(2022年)	R5(2023年)	R6(2024年)	R7(2025年)	R8(2026年)
奈良県	0	0	1	0	1
全国	118	134	122	191	29

※全国では、平成25年1月に国内で初めて確認されて以降、患者数は年々増加傾向にあります。奈良県では、2例目の患者です。